

令和三年度 入学試験問題 国語（教員養成課程） 解答例

問一 二重傍線部 a、s、e のカタカナを漢字で書きなさい。（二〇点）

【解答】 a 抵抗 b 概観 c 築（いた） d 添（えられて） e 補（われて）

問二 傍線部①「周辺民族は次第に独自の文字を持つようになる」とありますが、その動機を、三〇字以上四〇字以内で説明しなさい。（一〇点）

【解答例】中国から自立した民族の独自性を主張するものとして、固有の文字を持つとしたこと。（40字）

問三 【表】に傍線部②「ひらがな」、傍線部③「ハングル」とあります。この【表】と本文を踏まえ、制定者・制作者を観点として、ひらがなとハンゲルの違いについて、五〇字以上六〇字以内で説明しなさい。（二〇点）

【解答例】ひらがなは制定者・制作者の個人名が特定されていないが、ハングルは制定者や制作者がはっきりした欽定の文字である。（55字）

問四 空欄 A の原文は「託_ニ其根_於心地_一、発_ニ其華_於詞林_一者也」です。「託」は「つく」と、「発」は「ひらく」と訓じます。これについて、次の問いに答えなさい。（二五点）

(一) これを書き下し文にしなさい。

(二) この「根」と「華」に当たる語句を「仮名序」からそれぞれ抜き出しなさい。

(一) これを書き下し文にしなさい。（一〇点）

【解答例】 其の根を心地に託け、其の華を詞林に発く者（もの）なり。

(二) この「根」と「華」に当たる語句を「仮名序」からそれぞれ抜き出しなさい。（五点）

【解答例】 根_ニたね（種） 華_ニ葉（よろづのことの葉・ことの葉）

問五 空欄 B の原文は「莫^レ宜^ニ於和歌^一」です。これを現代語に訳しなさい。(一〇点)

【解答例】和歌よりよいものはない。

問六 傍線部④「ことわざしげきものなれば」について次の問いに答えなさい。(一〇点)

(一) 二重傍線部「なれ」を次の例にならって、文法的に説明しなさい。

(例) ちからをいれずして 打ち消しの助動詞「ず」の連用形

(二) 二重傍線部「なれ」と同じ意味のものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア よろづのことの葉とぞなれりける。

イ この歌天地の開け始まりける時より出で来にけり。

ウ 様を変へたるなるべし。

エ 長柄^{ながら}の橋も作るなりと聞く人は、

(一) 「なれ」を次の例にならって、文法的に説明しなさい。(五点)

【解答例】断定の助動詞「なり」の已然形

(二) 二重傍線部「なれ」と同じ意味のものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(五点)

【解答】ウ

問七 傍線部⑤「いきとしいけるもの、いづれかうたをよまざりける」を、「いきとしいけるもの」の意味を明確にして現代語に訳しなさい。(一〇点)

【解答例】すべての生き物で、うたをよまないものがあるだろうか、いやない。

問八 傍線部⑥「たけきものふ」とは、どのようなものの例として挙げられているか、簡潔に説明しなさい。(一〇点)

【解答例1】物事の情趣を理解できないものの例

【解答例2】歌で心をなくさめるのにふさわしくないものの例

問九 傍線部⑦「白髪三千丈」は、李白「秋浦の歌」の一句です。李白について、次の語をすべて用いて、五〇字以上六〇字以内で説明しなさい。(一五点)

詩仙 杜甫^{とほ} 『奥の細道』

【解答例】杜甫と並び称される盛唐の詩人で、後代、詩仙とよばれた。その作品は、江戸時代の松尾芭蕉『奥の細道』に大きな影響を与えた。(59字)

問十 傍線部⑧「中国と日本との表現方法の違い」とありますが、どのような違いか、七〇字以上八〇字以内で説明しなさい。(三〇点)

【解答例】中国では心情を直接的に言ったり極端な誇張表現をとったりするのに対して、日本では生の感情を直接的に表出することを避けた抑制的な表現方法をとるとい違い。(75字)

問十一 現代日本語において、ひらがたと漢字が併用されていることについて、あなたはどのように考えますか。具体例を挙げながら、二五〇字以上三〇〇

〇字以内で述べなさい。(五〇点)

【解答例1】

ひらがたと漢字のそれぞれに与える印象の違いがあり、その違いを活かした使い分けをすべきである。ひらがなは、言葉に柔らかくおだやかな印象を持たせることができる。一方、漢字は、硬質で厳格な印象を与えることのできる文字である。例えば、「子供」と漢字で書くよりも、「こども」とひらがなで表記する方が、子供の可愛らしさや幼さを印象づけることができる。もしも親や子供向けのポスター等に記載するならば、この柔らかい印象を持つひらがな表記を用いることが望ましいだろう。このように、同じ言葉でもひらがたと漢字はそれぞれ与える印象が違っており、目的や場面に合わせて効果的に使い分けることが望ましいと考える。(292字)

【解答例2】

漢字はたとえば「龍」のように画数が多いものがあるだけでなく、読み方も「たつ」「りゅう」など一つの漢字に対して複数あり、学習するのが大変である。国際化社会にあつて外国から来た人にも読みにくい。では、習得が容易で読み書きしやすいひらがなだけを使うようにすべきであろうか。この場合は、たとえば「ここではきものをぬいでください」のように書かれた時に読みにくいだけでなく、「ここで履き物を脱いでください」なのか「ここでは着物を脱いでください」なのか区別できないようなこともあるだろう。漢字とひらがなの二種を用いるのは日本語という言語を書き表すのに最適化された結果であり、両者を使い続けるのが良いと思う。(296字)